

十周年記念植樹〈クス・タブ・カシ〉・ ミュージアム伝統館に

10月6日(土)午前中、散居村ミュージアム・伝統館で、カイニョ倶楽部十周年植樹と、記念講演会を開催した。会員21名が参加し秋晴れの中で新しい節目を確認しあった。

植樹は、伝統館の屋敷林内で、クス・タブ・ウラジロカシの3本を植えた。始めに柏樹代表幹事が「節目の植樹をこのミュージアムの一角でやれることになった。皆さんの記憶にとどめてもらい、お互いに成長を心の中で見守っていきましょう」と挨拶し、三本を植え、まわりの整理や、寄植されている中の草をとる作業を約1時間おこなった。また、前庭の堀にアヤメを植えた。

記念講演は、和田健先生「きごころを知る」で、何十年もカイニョとその中の野草を見てきた先生の心中を約1時間30分聞き、全員の胸に「カイニョの原点とは何か」とわれ、先生の思いを痛く説きこまれた。その講演に先立って、洋画家で会員の林清納さんから所蔵されていた「散居の夕映え」の絵をいただき、倶楽部の記念寄贈の名でミュージアムの砂田館長におわたしした。

この模様を富山新聞と北日本新聞が次日の朝刊で報じた。



植樹に際し、柏樹代表からの挨拶

カイニョは生きる原風景

—「きごころを知る」講演会—

和田健先生の講演「きごころを知る」要旨。

- ・最近、気にかかることに「合理化」、「改革」とかの流れが主流で、家やカイニョも簡単に破壊、消滅される。その理由が「使いにくい」、「動かん」、「掃除できん」と短絡的なのだ。「そのまま」に注目していく時代ではないか。
- ・カキをならせておくと熊がくるとか、タキ火で隣の車に灰がつくとか、山で枝打ち後、カッター機で粉碎し撒布するとか、落葉や田のヒエをゴミ袋に入れるとか、どうも常識がずれているのではないか。
- ・カイニョの視点から——草もカイニョの要素、カイニョの木の配置が大事、植物の特徴を考え植える。
- ・都会的視点は、自由度が強調され、農的視点はコミュニティが重視される。
- ・農的視点で変わってきている事例——自家菜園の減少、豆腐屋がなくなる、職人がいない、ハシゴを燃やす、葬式の手伝いの形。
- ・都会的視点の導入例——家に鍵をかける、車が全て、使いすて、別居、プライバシーの強調。
- ・最近、盛んに耳にする言葉——「観光資源」、「地域おこし」、「世界遺産」。それがうわすべりし、ゆったりした内容があるのか。カイニョや伝統はどこにあるのか。看板の乱立。
- ・カイニョのネーミングが大事。「癒しの森」、「保養の森」、「極楽の風」、「除菌の森」、「暖冷房の森」、「ハーブ園」
- ・カイニョづくりと付き合い方——10cm以下の植物は残しておいたらよい。生活にかかわらないし、植物間で制御しあう。
- ・本物の木のある家〈小宇宙、曼荼羅、鎮守の森、仏の森〉を大事にしよう。
- ・最高の庭師は、「雪」と「風」だ。
- ・カラス(知恵のある鳥)との根くらべ、自然体験。カイニョの中の観察が大事。野草の社会に触れ、考えること。野草もカイニョの一員だ。
- ・スギゴケとゼニゴケ——その土地の特徴を教える。生理的にあった植物が入ってくる。

- ・「畏れ」と「緊張」をもった美学を身に付ける。——カイニョから教わるところだ。畏敬観、草木美（形態美、生態美、共生美）。カイニョの中の季節変化は人のつくったものを寄せ付けない。
- ・カイニョは芸術館——風のゆらぎ、風の音、芽ぶき、日替わり、季節感（歳時記）、哲学の森、ツユの変化。
- ・カイニョは南方熊楠の思想でみることで、対比される柳宗悦の、すばらしいもの、立派なものだけに注目することでよいのか。
- ・カイニョはセラピーの素。
- ・輪廻の世界（落ち葉は根にかえる）——カイニョの中の全生物とつきあう、人はその中の一員であることを心したい。

**まとめ：話の真髓と、カイニョ倶楽部活動の意義
—木に近づきつきあう人づくりだ—**

- ①カイニョは原風景—カイニョを構成する全生物に注目すること。
- ②カイニョの実用ばかりをとりあげるな。——風致美学、遊びも加えること。
カイニョは、粘菌の存在にも注目した南方熊楠の思想だ。
それに比べられる柳宗悦は、大きいもの、立派なもの、NO1をすすめる思想で、カイニョのあり方と違う。
- ③スギは倒れ建物に被害を与えることもある。それでもそのスギを大事にしたいという心が大事だ。（平成16年、23号台風被害者の中でその体験報告者に注目）
- ④社会の変化にのみ迎合しては、本物はなくなってしまう。
枝葉は土に帰るの基本をふまえよう。
カイニョの存在はセラピーの先端だ。
- ⑤カイニョは「自然」、「神」、「人」がバランスよく生きている型だ。そこには、先祖の魂も生きている（人の歴史も重なる）。
- ⑥野生の草目（木）にも目をむけること——何かで役立っている野草を無視するな。一木一草の価値を知れ。
 - ・雑草という言葉にまどわされるな。
 - ・木自体・虫から守る力をもっていること（人間は思い上がるな）
 - ・草が土に帰るといふ「ベース」をきちっともとう。



講演の和田先生



伝統館で話しを聞く

次回の例会案内（万福寺の掃除）

（小雨決行）

□日時：平成19年11月17日（土）午前9時～12時

□場所：万福寺（砺波市太田 1-661）

□内容：①掃除、②石仏の案内

□会費：500円（掃除のあと、豚汁を食べながら談笑）